

事務事業名		災害救助事業		所属部	防災部	所属課	防災安全課
総合計画体系	政策名	政策外		所属G	防災安全G		
	施策名	施策外		担当者名	田部雄二		
	目的・対象	意図		課長名	女鹿田比文		
	基本事業	その他		電話番号	0854-40-1027 (内線)		
目的・対象	意図		予算科目	会計	款	大事業	大事業名
				0:1:15	0:1	0:1	災害救助事業
				項目	中事業	中事業名	
				2:0:05	0:1	0:1	災害救助事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)		② 意図(対象がどのような状態になるのか)	
指定避難所避難者、被災者		避難所の開設に要した経費及び使用した備蓄品の補充を行う。	
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)			
事業期間	令和3年7月に開設した指定避難所での備蓄品の提供及び購入、住宅応急修理費、使用毛布のクリーニング料、温浴施設開放協力金、避難所運営協力金を支出した。災害救助法による充当可能な経費については県費を充当した。対象経費4,452千円。(これ以外の対象経費:飲料水の供給442千円、市町村事務費489千円、ボランティアセンター設置運営3,548千円、災害救助費合計8,931千円)		
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返(年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度(年度 ~ 年度)			
④ 主な活動		⑤ これまでの改革・改善経緯	
R3年度実績(R3年度に行った主な活動)		(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	
指定避難所での備蓄品の提供、住宅応急修理費、使用毛布のクリーニング料、スポットクーラーレンタル料、温浴施設開放協力金、避難所運営協力金を支出した。また、備蓄品の消費分については買い入れによる補充を行った。災害救助法による充当可能な経費については県費を充当した。		避難所での食料や飲料は自助共助公助で成り立つこととしており、公助分として最低限の備蓄はしておく必要があり、一定程度の備蓄を進めていた。	

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(計画)
ア R3.7.12~13避難者数	人			1,002	
イ					
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R3年度決算)		② コストの推移		単位	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(計画)
消耗品	7,133千円(5)	財源内訳	国庫支出金	千円				
ブルーシート、備蓄食料、水、土のう他			県支出金	千円			4,452	
修繕費 (4,158千円) 住宅応急修理費			地方債	千円				
手数料 182千円 毛布クリーニング代			その他	千円				
賃借料 (185千円) スポットクーラーレンタル			一般財源	千円			11,895	
負担金 1,068千円(104)施設開放協力金		事業費計		千円	0	0	16,347	0
交付金 3,621千円 避難所運営協力金								
合計	16,347千円(うち対象経費4,452千円)							

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	令和3年7月豪雨災害において指定避難所を迅速に開設し備蓄品の提供等、住宅応急修理、温浴施設の開放を通じ避難者の安心安全に務めた。また、避難所運営に係る地域自主組織の共助部分の経費に対し避難所運営協力金の交付を行った。
② 事業実施するうえでの課題	食料、飲料水など最低限の物品に限られている。避難される際には食料など持ち出し品をできるだけ携行もらう必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	自助、共助、公助による備蓄について周知する。地域自主組織の備蓄状況と雲南市の備蓄状況の情報共有。